

善福寺公園かめ新聞

第4号2004年月11月11日



☆どうしてカメの調査をしていたの？

善福寺公園でカメ類の個体群構造を把握すること、また善福寺池固有の生物相を回復するために外来カメ類を除去することを目的に調査を行いました。

☆どれぐらい調査をしていたの？

2004年6月25日～7月2日、7月24日～30日、8月14日～20日、9月3日～9日の6月～9月の間、各月、7～8日連続して調査を行いました。

☆どうやって調査をしていたの？

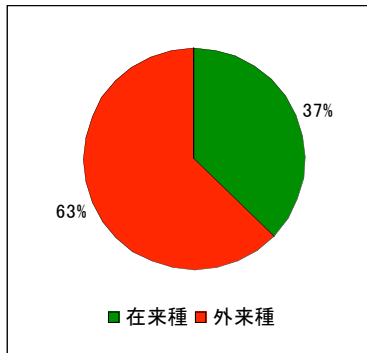
カメは張網(はりあみ)と蟹かごという2種類の道具を使って採集しました。個体ごとに種類、背甲長、ヒルがついているかいないかを記録して、甲羅に標識をつけて池に放しました。網は3個、かごは10～13個ほど設置しました。調査は1日2～3人で行いました。

採ったカメは在来種はその場で逃がし、外来種は地域在来の自然を保護するために取り除き、研究試料として大学の研究室などに提供しました。

☆どんなカメがいたのかな？

生息を確認したカメ類は、ニホンスッポン、ニホンイシガメ、クサガメ、ヤエヤマイシガメ、ミナミイシガメ、ミシシippアカミミガメ、キバラガメ、ハナガメ、カミツキガメ、チズガメ類の10種で(目視のみの観察を含む)、採集したのは153個体、このうちの7種は外来種でした。

スッポン科	ニホンスッポン	2 匹
ヌマガメ科	ニホンイシガメ	5 匹
	クサガメ	50 匹
	ミナミイシガメ	3 匹
	ヤエヤマイシガメ	1 匹
	ミシシippアカミミガメ	87 匹
	キバラガメ	1 匹
	チズガメ類	1 匹
	ハナガメ	3 匹
カミツキガメ科	カミツキガメ	1 匹



善福寺公園のカメたち



ニホンスッポン

確認された個体数は2匹と極めて少なく、複数の公園利用者から、本種が採集されて持ち出されているという情報が提供されました。今後の生息の存続が危惧されます。東京都レッドデータブック(東京都の保護上重要な野生生物種)Cランク(希少種)



ニホンイシガメ

クサガメ・ミシシippアカミミガメと比べて個体数が著しく少なく、若齢個体を確認できませんでした。それゆえに、世代交代していない可能性があります。

日本固有種で、東京都レッドデータブックAランク(絶滅危惧種)



クサガメ

若齢から老齢までの幅広い年齢幅の個体が生息していて、繁殖状況も悪くないと考えられます。上池・下池ともに広く分布していました。

ただ、ヒルの寄生率が比較的高くみつけられました。東京都レッドデータブックCランク(希少種)



ミシシippアカミミガメ

外来種のうちもっとも多く採集され、全体の57%を占めていました。87匹を採集・除去しましたが、現在も多くの個体が生息しているのを確認しています。

本種は北米大陸原産で、年数回、2～22卵ほど産卵します。本年も公園利用者により園内の産卵が確認されています。



カミツキガメ

上池で1個体を採集しました。公園利用者から、下池にも生息しているという情報がありました。生息情報のある個体が複数で、寿命が長いため、公園内で繁殖する可能性があります。本種は強力なあごを持ち、貪欲な食性で大型になるため、池の生物相に重大な影響を及ぼす恐れがあります。



ミナミイシガメ

本来近畿地方の一部に分布しています。

オス・メスともに採集されており、公園内で繁殖する可能性があります。また、クサガメとの間に雑種を形成することが報告されており、希少種であるクサガメが、遺伝子浸透によって雑種化する可能性があります。



ハナガメ

本種は東南アジア原産です。

オス・メスともに採集されました。

台湾では捨てられたクサガメとの雑種ができてしまっているため、ミナミイシガメ同様にクサガメが遺伝子浸透によって雑種化する可能性があります。



キバラガメ

北米大陸原産で、ミシシippアカミミガメの基亜種です。



ヤエヤマイシガメ

本来は石垣島・西表島・与那国島に生息しています。

今回の調査で、善福寺池に生息するカメ類の実に6割が外来種であるということがわかりました。しかし池にはニホンスッポンやニホンイシガメなど、貴重な種が生息できる良い環境がまだまだ残されています。

外来カメ類は、もとをたどればペットが捨てられて定着したものです。カメを放すことは地域独自の大切な生態系を壊してしまうことにつながります。善福寺池の生物相を保全・回復するためにも、いちど飼うと決め動物は最後まで責任をもって世話をしていきたいですね。